

# 事業検証シート

基本目標番号	1	施策番号	2	基本事業番号	2	計画番号	27
事業名	インバウンド対策					区分	継続
目的	外国人観光客の満足度向上と誘客促進を図る。						
手段	国立公園満喫プロジェクト事業と連携し、滞在時間の延長や消費額の増加に向け、関係機関と連携を強化するとともに、事業者が実施するインバウンド受入環境整備の取組を支援する。						
事業開始年度	平成28	年度	事業終了年度		年度		
成果指標					現状値の推移		目標値
					令和3年度	令和4年度	令和5年度
外国人宿泊者数(1月～12月)			266人/年	4,910人	102,500人/年		
	令和3年度	令和4年度	令和5年度				
事業費 (単位:千円)	1,484	2,851	3,989				
備考							
事業実績	実施内容						
	①受入れ体制の強化 ・QRコードによる案内看板の多言語案内表示 ・インバウンド受入環境整備事業補助金 ②クルーズ船誘客対策 ・青森港国際化推進協議会への参画						
	事業実績(成果指標以外)		令和3年度	令和4年度	令和5年度		
	QRコードによる案内看板の多言語案内表示アクセス数 (設置箇所:十和田湖畔17件、奥入瀬溪流19件)		十和田湖 :680件 奥入瀬溪流:260件	十和田湖 :733件 奥入瀬溪流:276件	※		
	インバウンド受入環境整備事業補助金 (令和4年度補助金額:Wi-Fi整備:2件、トイレ洋式化・ホームページ英訳・案内等多言語化:各1件)		2件(801千円)	5件(2,146千円)	※		
青森港国際化推進協議会 クルーズ船寄港数		1件	6件	※			
事業評価	達成状況	おおむね達成					
	入国制限の緩和や円安の影響で、外国人観光客の本市への来訪は回復傾向にあり、各種誘客事業を実施したことで、受入体制の整備が図られた。						
今後の方向性	重点化を図る						
理由	インバウンド需要の回復により、多くの観光客の来訪が見込まれるため。						
重点化内容 または 改善内容	インバウンド受入環境整備事業補助金による支援により、受入体制の更なる強化を図る。						

令和5年8月23日（水）

令和5年度第2回外部評価委員会

# 事務事業評価 事業説明資料 【インバウンド対策】

農林商工部 商工観光課

# インバウンド対策事業について

## ■ 目的

外国人観光客の満足度向上と誘客促進を図る。

## ■ 手段

国立公園満喫プロジェクト事業と連携し、滞在時間の延長や消費額の増加に向け、関係機関と連携を強化するとともに、事業者が実施するインバウンド受入環境整備の取組を支援する。



# 1. 受入れ体制の強化①

## ■ 事業名

十和田湖・奥入瀬溪流内案内看板の多言語化

## ■ 事業内容

十和田湖周辺及び奥入瀬溪流内の既存看板等にQRコードを貼付け、外国人観光客がスマートフォンで読み取ることで、多言語でその内容を表示する。

また、利用者状況の年度ごとの調査分析を行う。(アクセスレポート集計年4回、事業費489千円)



# 1. 受入れ体制の強化①

## ■ 位置図（十和田湖周辺）





# 1. 受入れ体制の強化①

## ■ 位置図（奥入瀬渓流内）



QRコード貼り付け例(No.14)


①岩の上の植物	⑩クマイザサとチシマザサ
②エゾハルゼミ	⑪春の花
③ブナ林の樹木たち	⑫カツラ
④溪流の鳥	⑬ツルアジサイ
⑤ドロヤナギ(ドロノキ)	⑭コケの仲間
⑥シダの仲間	⑮水と雪の造形
⑦夏鳥たち	⑯カエデの仲間
⑧トチノキ・サワグルミ林	⑰十和田湖の水利用
⑨初夏の花	⑱十和田湖の水草

※石ケ戸休憩所には看板とは別に、奥入瀬渓流全体の案内などのトップページのQRコードを貼付（全19か所）



# 1. 受入れ体制の強化①

## ■ 事業実績（QRコードアクセス数）

	十和田湖 (17か所)	奥入瀬溪流 (19か所)	合計
令和2年度	999人	379人	1,378人
令和3年度	680人	260人	940人
令和4年度	733人	276人	 <u>1,009人</u>
増加率 (R4/R3)	107.8%	106.2%	107.4%

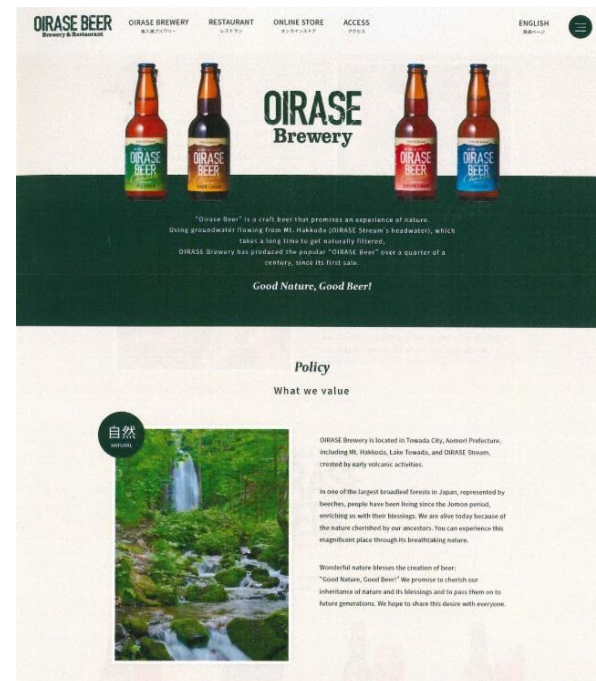
# 1. 受入れ体制の強化②

## ■ 事業名

インバウンド受入環境整備事業補助金

## ■ 事業内容

外国人観光客の受入環境の充実を図るため、宿泊事業者等が行うインバウンド受入環境整備事業に対し補助金を交付する。（補助率1/2、上限1,000千円）





# 1. 受入れ体制の強化②

## ■ 事業実績（インバウンド受入環境整備事業補助金の件数と金額）

	補助件数	補助金額	補助対象事業
令和3年度	2件	801千円	・Wi-Fi整備① ・ホームページ英訳①
令和4年度	5件	2,146千円	・Wi-Fi整備② ・ホームページ英訳① ・案内等多言語化① ・トイレ洋式化①
増加率 (R4/R3)	250%	268%	

## 2.クルーズ船誘客対策

### ■ 事業名

青森港国際化推進協議会への参画

### ■ 事業内容

外航船及び内航船の利用促進を図り、もって地域経済の振興に寄与するため、青森港における利用促進、新規航路の開設、貿易推進などの各事業に対して負担金を支出。

(事業費216千円)



## 2.クルーズ船誘客対策

### ■ 事業実績（令和4年度青森港クルーズ船寄港数）

	船名	来訪日	乗客定員
1	ぱしふいっくびいなす	6月3日	460名
2	ぱしふいっくびいなす	8月4日	460名
3	にっぽん丸	8月5日	400名
4	飛鳥Ⅱ	8月6日	872名
5	アザマラ・クエスト	3月21日	702名
6	シルバー・ミュージズ	3月24日	596名
合計（把握している分のみ）			3,490名

## 3. その他の取組①

### ■ 市街地観光案内看板の多言語化（新規：令和5年度）

官庁街通り及び北園駐車場にある観光案内看板にQRコードを貼付け、外国人観光客がスマートフォンで読み取ることで多言語でその内容を表示（盤面の更新に併せて実施）

実施場所：3カ所 入口広場、桜の広場、北園駐車場

入口広場



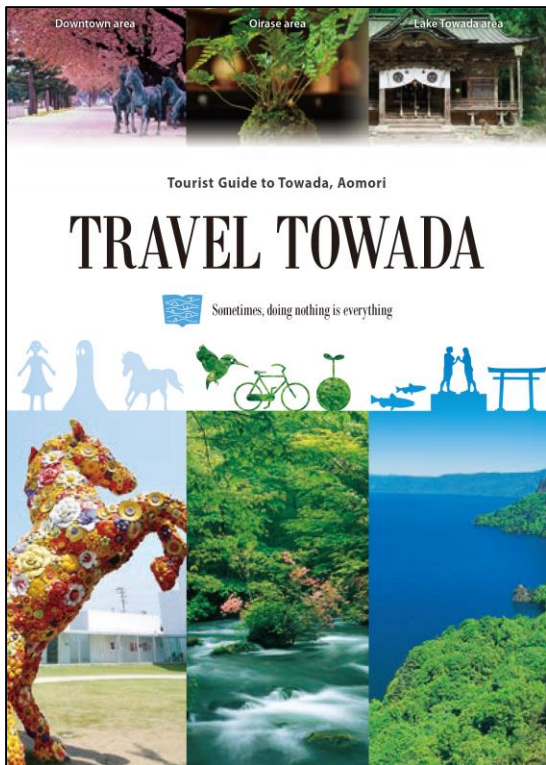


# 3. その他の取組②

## ■ 多言語パンフレット作成（平成27年度から）

十和田市の観光パンフレット「とわだ旅」を多言語で作成

言語：英語、繁体字、簡体字、韓国語、タイ語





# 3. その他の取組③

## ■ 外国語対応職員の配置（平成28年度から）

十和田湖観光交流センター「ぷらっと」に多言語対応可能な職員を配置

対応言語：英語、中国語、フランス語など

※指定管理者である（一社）十和田奥入瀬観光機構の職員



※（一社）十和田奥入瀬観光機構において、県と連携し、海外旅行会社との商談会等の開催や、多言語ウェブサイトの更新等、インバウンド誘客対策を実施予定

# 事前質問への回答

Q 1 コロナ以前の宿泊者数は、どの程度であったか。

A 1 コロナ以前（H27～R1年）の日本人と外国人を含めた宿泊者数は以下のとおりである。

令和元年度の宿泊者数が1番多かった。

（単位：人泊）

H27	H28	H29	H30	R1
275,190	292,967	320,211	327,896	331,881

（市内協力宿泊施設への調査による実数）

Q 2 外国人宿泊者を受け入れる施設では、人員は確保されているか。

A 2 市内全ての宿泊施設において、外国人の受け入れ体制の人員の確保が充分であるかは把握していないところであるが、当市に宿泊する外国人観光客は奥入瀬溪流ホテル、十和田荘に主に宿泊している傾向が高い。奥入瀬溪流ホテルでは、外国人の従業員を雇用しているほか、英語対応ができる日本人スタッフを配置していると聞いている。

Q 3 宿泊施設は充分確保されているか。

A 3 当市には33の宿泊施設があるが、施設数としては減少している。市街地エリアでは、ビジネスホテルが多く、年間を通してビジネス目的の利用客が8割を占めているため、観光目的の利用客分としては充分確保されているとは言えない状況と推測される。



Q 4 ガイド・案内人は十分に確保されているか。

A 4 市では総合計画において、令和8年度の目標値115人までの観光ガイド人数の増加を目指しており、令和4年度においては73人となっている。

令和4年8月に策定した十和田市観光戦略2022-24においても、「上質な自然の魅力」を観光客に伝えるネイチャーガイド養成講座の実施をアクションプランで掲げ、ガイドの養成事業を継続して取り組んでいく。

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
観光ガイド人数	51人	71人	73人
養成講座修了人数	18人	13人	23人

Q5 QRコードについて多言語とあるが何か国語に対応しているのか。また言語ごとの利用数は。

A5 4か国語（日本語、英語、中国語（繁体字、簡体字）、韓国語）に対応している。言語別のアクセス数は以下のとおりで、外国語では英語が最も多く、次いで繁体字となっている。

		日本語	英語	繁体字	簡体字	韓国語	合計
R2	4～6月	287	50	8	3	1	349
	7～9月	231	156	7	17	4	415
	10～12月	117	63	19	3	0	202
	1～3月	21	8	0	1	3	33
	合計	656	277	34	24	8	999
R3	4～6月	107	76	2	24	1	210
	7～9月	191	56	0	1	1	249
	10～12月	131	52	6	2	0	191
	1～3月	19	7	2	2	0	30
	合計	448	191	10	29	2	680
R4	4～6月	189	67	10	3	2	271
	7～9月	146	50	18	0	0	214
	10～12月	85	62	34	6	0	187
	1～3月	36	13	11	1	0	61
	合計	456	192	73	10	2	733

		日本語	英語	繁体字	簡体字	韓国語	合計
R2	4～6月	66	27	2	2	0	97
	7～9月	73	75	6	0	3	157
	10～12月	91	15	3	0	0	109
	1～3月	10	3	1	2	0	16
	合計	240	120	12	4	3	379
R3	4～6月	53	43	2	1	0	99
	7～9月	69	31	11	0	0	111
	10～12月	25	11	3	3	0	42
	1～3月	5	3	0	0	0	8
	合計	152	88	16	4	0	260
R4	4～6月	90	34	7	2	0	133
	7～9月	27	15	6	2	1	51
	10～12月	33	36	0	1	3	73
	1～3月	9	8	1	1	0	19
	合計	159	93	14	6	4	276

Q 6 国立公園満喫プロジェクト事業と連携し、とあるがどんな事業者が対象なのか。また対象は市内全域か特定の地域か。

A 6 十和田八幡平国立公園満喫プロジェクトでは、環境省や市など関係団体と連携し、国立公園内の旅行者数を震災復興や新型コロナウイルス感染拡大前への回復を目標に「上質な滞在環境の創出」のための廃屋撤去や景観改善等に取り組んでいるものである。市では、この満喫プロジェクトと連携して、奥入瀬溪流地区のネイチャーガイド拠点施設整備として奥入瀬溪流館の改修及び十和田湖畔地区の市道休屋十和田神社線の石畳化に取り組んでいるところである。

Q 7 外国人宿泊者数は市内全域分か。特定の地域分か。

A 7 市内全域を調査区域としているが、全数ではなく調査に協力していただいている宿泊施設の数値である。  
エリアとしては、市街地、奥入瀬八甲田、宇樽部・休屋である。

Q 8 令和3、4年度は宿泊者数の伸びに比べて多言語案内のアクセス数はほぼ横ばい。要因は何か。

A 8 まず、QR Translatorのサイトにより周知に努めているもののQRコードによる案内看板の多言語案内サービスの認知度の低さが考えられる。

次に、奥入瀬溪流エリアはWi-Fi環境がほとんど整備されていないため、多言語表記ページへのレスポンスの遅さも原因と考えられる。県主導によるWi-Fi環境の導入に向けて検討がなされているため、市では注視しているところである。



Q9 寄港したクルーズ船の乗客は何人で、うち何人が十和田を訪れているか。

A9 青森港国際化推進協議会より提供を受けた寄港予定のクルーズ船の現状は表のとおりである。具体的な人数は把握していない。

	船名	来訪日	乗客定員
1	ぱしふいっくびいなす	6月3日	460名
2	ぱしふいっくびいなす	8月4日	460名
3	にっぽん丸	8月5日	400名
4	飛鳥Ⅱ	8月6日	872名
5	アザマラ・クエスト	3月21日	702名
6	シルバー・ミューズ	3月24日	596名
合計（把握している分のみ）			3,490名

Q10 令和4年のWi-Fiの整備をもう少し詳しく教えてほしい。

A10 市内2宿泊事業者による整備で、1者は全客室やロビー等の共用スペースへのアクセスポイントの増設、もう1者は別棟（客室）へのWi-Fi用配線工事に対して補助した。

Q11 滞在時間を延長させる対応（対策）はどうか。

Q12 消費額を増加させるための手段、ルート整備の状況はどうか。

A11・12 現状では宿泊以外の体験型コンテンツの造成が必要と考えており、実施主体である（一社）十和田奥入瀬観光機構において、令和4年度は外国人観光客が見込めないと想定し、国内向けに農業体験やイグルーづくり、十和田山登山ツアー等の観光開発を実施した。  
今年度は、コロナ前のような外国人観光客の回復が見込まれるため、観光再始動事業により、インバウンドの地方誘客や消費拡大に向けた「青森の方言を活用した独自の農泊体験と十和田地産食コンテンツ造成事業」や「冬の十和田八幡平国立公園インバウンド向け高付加価値ツアー造成事業」に取り組むこととなっている。